

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・1月26日現在の来客数が前年比134%と非常に伸びている。このままで推移すれば、1月としては過去10年間で最も来客数の多い年となりそうである。
	やや良く なっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・外国人観光客の増加により、売上がかなり増加している。円安や中国人に対するビザ発給要件の緩和といった要因もあるが、やはり外国人旅行者への消費税免税制度における対象品目拡大の効果が大きく、当店の免税販売額は前年から倍増している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・数か月前からの現象だが、シャンパンなどの高額商材がよく売れている。ワインも以前と比べると300～500円程度単価の高い商材の動きが良くなっている。客単価は全体で5%程度上昇している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・今年は前年よりも積雪量が少なく、行動しやすいため、来客数が前年比102%と増加している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新春初売りやホテルでの展示会催事への来客数が前年よりも増えており、商材の購入額も高額になっている。暖房に必要な灯油の価格が下がってきたことが要因の1つとみられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・1年で最大の繁忙期を迎えているなか、新型車の販売効果が徐々に表れてきている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格の急落により石油製品価格が値下がりしていることから、販売量が上向きになっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・総選挙も終わり、年が明けてから少しずつ客足が良くなっている。現政権の経済対策の効果が当地にも表れてきている印象がある。客が増えていることで、売上も増加しており、従業員にも活気が出ている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・台湾や中国など、近隣のアジア諸国からのグループ旅行、個人旅行が好調である。国内旅行も募集型の旅行商品による動員が好調である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・総選挙の影響で前年11月から航空機のビジネス需要や観光需要に伸びがみられなかったが、年明けとともに動きが戻ってきている。ただし、悪天候の影響で欠航便が多数出ており、売上に結び付いていない面がある。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・ガソリンや灯油の価格が下がったことで、客の気持ちにゆとりが生まれており、出費がほかの物にも回るようになった雰囲気がある。商品販売にも動きがみられ、販売量が前年から5%程度増加している。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・春先からの工事に向けて、消費者に動きがみられるようになってきている。	
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・客単価の二極化が進んでいるなかで、売上が減少している。高額商材については販売量と客単価が徐々に落ち込んでおり、低額商品については販売量こそ変わらないものの、客単価がさらに低下している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみても前月と同じような反応であり、状況は変わらない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・一般客による消費は依然として増えていない。ただ、悪くもなく良くもないという状況であり、小康状態が続いている。外国人旅行者は好調を維持しており、日本人観光客の落ち込みをカバーしている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・初売りの3日間の来客数が前年比104%と好調に推移したが、中旬以降は暴風雪の影響で来客数が大幅に減少したため、月全体では前年比95%と前年を下回った。セールに対する客の動きが弱く、セールの売上は前年比92%となった。一方、春物の定価品の動きは月を通して健闘した。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・新規施策を行っても集客につながらず、売上が減少した。顧客については、買い回りがみられるなど、1人当たりの客単価が大幅に上昇しているものの、フリー客の来店がみられない。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・買上客数、客単価ともにマイナス傾向にある。大幅悪化とはなっていないものの、回復力に乏しい面がある。客単価だけをみると、婦人服関連は健闘しているものの、宝飾、時計などの高品質の高額商材の動きが悪い。

百貨店（役員）	来客数の動き	・衣料品の売上は前年並みで推移している。一方、家具や家電などの耐久消費財は消費税増税の影響から脱しきれていない。当地は雪がそれほど降っていないため、ホームセンターでは、除雪用品、暖房関連商材などの冬物アイテムが奮わない。	
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。	
スーパー（役員）	単価の動き	・クリスマスや年末年始などの行催事の際は、売上などの数字が短期的に良くなる傾向にあるが、月単位では低調のまま推移している。年が明けてから、来客数には若干の増加傾向がみられるが、客1人当たりの平均買上点数は減少傾向にあり、客単価は前年から1%程度低下している。	
スーパー（役員）	お客様の様子	・正月商戦は消費が活発だったが、それ以降の客の動きが鈍い。お金に余裕がないように感じられる。	
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・消費税増税以降、来客数の落ち込みが続いている。特に夜間の減少幅が大きく、たばこや酒などの嗜好品の販売量が減少するなど、客の節約志向が顕著に表れている。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・米飯の売上は徐々に回復してきたが、動きとしてはまだ鈍い。たばこは依然として回復が遅れている。道北、道東において公共工事の減少が継続しており、そのことも影響している。	
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・一部の人は利益を得ているのかもしれないが、一般的なサラリーマンの状況は何も変わっていないため、2～3か月前と変わっていない。	
家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税後の低迷が思った以上に長引いており、3か月前と同様の状況が続いている。ただ、テレビなどを中心に、若干の回復傾向がみられる。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が続いており、かなり苦戦している。	
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・東日本大震災後、初めての車検時期を迎える乗用車が多いこともあり、全国的には車検の売上増加が見込まれているが、北海道ではその影響がさほど感じられない。むしろ、消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。	
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・正月の帰省も落ち着き、商売としては一段落しているため、周りをみても景気の良い話が聞かれない。	
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・外国人観光客は堅調だが、特に道外から訪れる国内客の予約が伸びてこない。	
タクシー運転手	それ以外	・1月のタクシー1台当たりの売上はほぼ前年並みであったが、人手不足で乗務員が足りないため、営業車の稼働率が落ちている。会社の売上としては前年を下回った。	
タクシー運転手	来客数の動き	・1月の売上は前年並みであり、3か月前と比較しても景気は変わっていない。	
パチンコ店（役員）	単価の動き	・灯油やガソリンの価格が下がっていることによる効果がみられる。	
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期を迎えて、旅客、車両ともに輸送量が減少している。	
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・高額商材、耐久消費財については、消費税増税の影響がまだ収まっておらず、売上不振の状況が続いている。	
住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の購入意思決定にかかる時間が前よりもやや長くなってきている。分譲マンションの購入に関して、客の態度が明らかに慎重になってきている。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・東南アジアからの観光客の動きは活発化しているが、夜に街中を出歩く姿が少なくなっており、コンビニや大型店の食品売場で夕食を購入する姿が増えている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・自家用車や公共交通機関を利用する来街者が減少している。例年であれば、年明けから成人式にかけての期間は若年層をともなった親世代の買物客が増加していたが、今年は少なくとも商店街の区域内では増加していなかった。また、地元住民の買物客もまばらであり、スーパーの買物袋を携行している客はいても、衣料品などの袋を携行している客は少なかった。

	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・地元客については、電気料金の値上げによる影響に加えて、猛吹雪の日が多かったことから、外出を控える人が多かった。ただ、中国を始めとしたアジアからの観光客が増加していることから、売上は前年比99.8%と前年並みであった。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・初売りの福袋については、前年を上回る売上がみられるなど、大変良い結果であったが、その後のセールでは、紳士服、婦人服とも、コート、ニットの売上が前年の8割台にとどまるなど、非常に厳しい状況にある。値段が安くなるから買うという客の心理が変わってきている。	
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・前年秋以降、来客数や売上の増加に寄与するのは、外国人観光客が中心になってきている。札幌近郊や道内各地からの客の来客数、売上に関しては縮小傾向に歯止めがかかっている。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・例年、1月は売上の悪い月であるが、今年は販売量が前年比で3%の減少、売上が前年比で8%の減少となり、ともに前年を下回った。	
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・来客数が減った。	
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・初売りは例年と変わらない売上がみられたが、1月後半は前年以上の来客数の落ち込みがみられた。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年が替わり、年末にあたりコールの印象が薄れていることで客の抵抗もなくなり、再び売れるようになってきているが、景気が上向くというところまでは至っていない。	
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車が出て、受注量が一方向に増えてこない。当社だけではなく、業界全般的な傾向となっており、消費者マインドの盛り上がりには欠けている。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、景気は上向き傾向にあったが、1月は予想外の結果であった。景気の変動に付いていけない状況にある。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・閑散期であることから、初めて週1度の定休日を設けるとともに、その対策として低価格のイベントを2日間行ったが、イベントが終わると再び厳しい状況となった。月全体では、売上、来客数とも前年を10%下回った。	
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・今年は道路状況が悪いため、歩いて来店する客、乗用車を利用して来店する客ともに動きが良くなかった。外国人観光客は相変わらず多いが、低価格の店舗や郷土料理店、一部のバイキングなどを利用しており、高級な西洋料理店にはあまり来店していない。地方の飲食店では世界的なガイドブック掲載店でも休業するケースが目立ってきた。	
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・消費税増税や円安の影響が大きく響いていることに加えて、地域の人口減少や流入人口の減少に歯止めがかからないため、景気はやや悪くなっている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・円安、 Deng 熱、 爆破テロなどの影響により、客が海外旅行に対してお得感や魅力よりも不安を感じるようになってきている。熟年層のヨーロッパ旅行や韓流ブームも一段落しているため、安心安全な国内旅行を望むようになってきており、販売額が減少している。	
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・旅行会社にとっては前年からの円安傾向に加えて、イスラム国関連の危険なイメージが重なり、旅行ムードにプレキがかかっている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・前月や前々月と比べると、消費動向が冷えてきている。今月の売上は前年から5%程度減少している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年、1月は冬休みや雪の影響で売上が伸びる月である。今年も売上は3か月前よりも約8%増加しているが、前年と比較すると約2%の落ち込みとなっていることから、やや悪くなっている。	
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・他社サービスへの乗換えが増えてきている。	
	悪くなっている	タクシー運転手	販売量の動き	・前年実績を上回ることでない状況が続いている。大都市圏との地域格差を感じる。
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客の設備投資意欲が増しており、実際に購買にもつながっている。
(北海道)	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、ほぼ変わらない受注状況である。

	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・住宅においては建築確認申請及び建築着工件数の低迷が続いているため、状況はあまり変わらない。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度内の受注がほぼ順調に確保できている。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・ようやく生乳の生産量が前年並みに回復してきた。12月に加工用の乳量が増えたことにより、バターや脱脂粉乳の在庫が若干増加している。
	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量及び問い合わせ件数から、比較的景況感が良くなっている。一方、商材やサービスの単価については落ち着きがみられる。総じて現状の景況感はやや良い状況が続いている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・設備投資意欲の向上が感じられない。しばらく沈静化していた企業倒産も増加傾向にあり、景気が上向きとは認識できない。
やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市圏、大企業を中心に景気は持ち直しているようだが、北海道などの地方では景気が悪化しつつある。とりわけ消費税増税前の駆け込み需要があった前年と比較すると、その傾向が著しい。
	建設業（従業員）	取引先の様子	・労務者不足といわれた建築現場も大部分が竣工時期を迎えていることに加えて、新規着工工事も少ないため、仕事量が減少している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・北海道において、第1四半期は建設、工事などの不需求期に当たるため、それらにともなう物流に停滞感がある。
	金融業（企画担当）	それ以外	・外国人観光客は増加しているが、訪問先が道央圏にとどまっているため、地方では恩恵を受けていない。建設業は公共工事のピークが過ぎ、低迷している。個人消費はガソリンや灯油の価格が下落しているものの、電気料金値上げの影響があり、節約志向が強くなっている。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築は依然として低迷している。冬期間ということもあるが、不動産の中古物件を扱う業者が在庫圧縮のため、買い控えをしており、リフォーム業者などの関連業種にも影響が出ている。
	司法書士	取引先の様子	・当地は降雪地帯であるため、例年、冬期間は不動産取引などの高額取引が減少する傾向にあるが、今年は取引件数が極端に減少している。先行き不透明な状況において、不動産投資の様子見が多くなるため、景気が思わしくない状況にあるとみられる。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・第4四半期以降、売上の前年割れが続いている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・大型案件の設計変更などにより工期の延期が発生していることで、これまで活況だった鉄骨加工分野の仕事量が減少し、低迷している。一方、金属加工業者の仕事量は確保されているが、取引先の購入意欲が低いため、期待できない状況にある。
	悪くなっている		
雇用関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・若年者への求人ニーズが高くなっている。当社が行政から受託した就職支援事業において、既卒3年目までの未就職者の支援を行ったが、就業未経験者の6割が正社員として採用されており、企業の求人ニーズが堅調であることがうかがえる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年を9.5%上回り、59か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年を6.5%上回り、59か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が増加傾向にあり、新規求人数が13か月連続で前年を上回ったほか、月間有効求人数も22か月連続で前年を上回った。一方、求職者数は労働力人口の減少や会社都合離職者の減少などから減少傾向にあり、有効求人倍率は1.07倍となった。
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・多少は求人が増えているが、給与などの雇用条件が変わってこないため、あまり変化が感じられない。

	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・年明けで様子見をしているのか、求人件数に若干の減少傾向がつかえる。ただ、人手不足が深刻な状況に変わりはないため、これから融雪期を迎えれば、求人が増加することになる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・一見にぎわっている飲食店街だが、外国人観光客が多く、国内需要の高まりはみられない。求人も非正規雇用が中心であり、慎重に様子見している企業が多い。ただ、求人件数は前年並みであった。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・12月の新規求人数は前年を7.7%下回った。新規求職者数は前年を9.4%下回った。月間有効求人倍率は0.86倍となり、前年の0.86倍と同数となった。新規求人数のうち正社員求人の占める割合は47.5%と相変わらず低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・就職件数が4か月ぶりに前年を上回ったものの、ほぼ横ばいでの微増であることから、身の回りの景気に変わりはない。
やや悪くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・中小企業の担当者によると、円安にともなう仕入値の高騰により、中小企業では体力が徐々に落ちており、そろそろ製品価格への転嫁を進めないと厳しい状況にあるとのことである。また、例年、市内ではこの時期に道路工事などの公共事業が活発に行われていたが、今年はそうした光景もあまりみられない。
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年から1割以上落ち込んでいいる。ここ数か月、前年並みか落ち込んでも微減で推移していただけに、この3年間、好調に推移していた募集広告に急ブレーキがかかった形である。なかでも小売、飲食の求人が半減していることから、消費や外食を抑制する傾向が出ているとみられる。